

# ザンビアダイアリー



## 日本との交流③

異なる文化を知ることは、私たちの興味や関心を広げるきっかけになると信じて、継続して取り組んできました。日本との交流を通して、日本人に好意をもってもらえたらいいなと思っています。

今回は、元々隊員としてザンビアで活動していた友人（現在は日本に帰国し小学校で働いています）と協力をして、交流をもちました。アジアの日本とアフリカのザンビアはとても離れていて、7時間の違いがあります。ザンビアでは朝の7時で学校が始まる頃、日本では14時で学校が終わる頃に行いました。実際にリアルタイムで会話をすることが子どもたちにとって貴重な体験になると思っています。ザンビアのこの村のネット環境は十分とは言えませんが、Skypeを活用して行いました。

内容は、英語での自己紹介、お互いの夢を紹介、リコーダーの演奏、伝統的なダンスの発表などを行いました。日本の子どもたちに喜んでもらおうと、ザンビアの子どもたちは日本語の挨拶を覚えて使ってみようとしていました。回を重ねるごとに、こうして日本人とやりとりすることに抵抗がなくなっていく様子が見られ、うれしい気もちになりました。

ザンビアには多くの中国人が住んでいるため、「中国人!」「ニイハオ!」とたくさん声をかけられます。複雑な気もちになりますが仕方のない事かもしれません。ですが、こうして日本と交流を経験したこの子どもたちが、これから先どこかでアジア人を見かけたときに、「ハロー!日本人ですか?」(はい。)  
「こんにちは!」と話しかけるようになったとき、このような交流を行った甲斐があったと実感できるのだらうと思います。それを願ってこれからも取り組んでいきます。



ザンビアでの活動も残りわずかになりました。子どもたちに様々な体験をプレゼントしたいと思いアンケートをとりました。どんなことに関心がありどんなことを希望しているのか、今後のザンビアダイアリーで紹介していきます。



発行：JICA 海外協力隊 大澤 明浩

2018年7月～2020年7月 チャールズルワンガ初等学校/モンゼ/ザンビア共和国

次回は『ザンビアの名所』を紹介します。